

平成 28 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福 陽 会

特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル
短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

事業報告目次

項 目	ページ
事業報告	
1. 事業報告(総括)	1-2
2. 職員構成	2
3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書	3-4
4. 処遇報告	4-6
1) 2F 事業報告・活動報告	
2) 3F 事業報告・活動報告	
3) 4F 事業報告・活動報告	
4) 移動理美容	
5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告	
5. 厨房事業報告	7
6. 医務室利用者健康管理報告	8-10
7. リハビリテーション報告	10-11
8. 生活相談員・介護支援専門員	11-13
9. クラブ活動実績報告	13-16
10. 年間行事実施報告	17
11. 事務費・固定資産物品報告	17
12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告	18
13. 職員研修報告	19-20
14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告	20
15. 消防訓練実施結果	20-21
16. ショートステイ事業報告	21

1. 事業報告（総括）

中長期計画について

社会福祉法人福陽会の理念を職員全員が周知し、実践していくことで、入所者様とご家族に信頼される施設として実績を重ねる努力を続けました。

中期基本方針について

現在実施していることを委員会等で常に検証し、より優れたサービス体制の構築へ向けてチームケアを進めています。

(1) サービス向上への取り組みの実績としては、介護職のみならず全職員がアドボケートとしての力を持てるよう、利用者様とのコミュニケーションを多く図り、サービスに繋げていけるようになっていきます。各委員会についても積極的に意見交換を行い、業務の改善と質の高いサービス提供を行う仕組みが定着してきました。

ボランティア委員会の設立を行い、窓口を確立し「日の出町いきいきボランティア事業」にも積極的に参加したことにより、ボランティア受け入れ強化施設として施設の知名度も上がってきたことが挙げられます。また 28 年度は初めての試みとして「ボランティア交流会」を開催し日頃の活動に感謝するとともに、意見交換を行いながら有意義な時間を過ごすことが出来、大変ご好評をいただきました。今後も継続して行っていききたいと思います。

災害対策については、高齢者施設災害防止講習会、防災対策支援事業研修会への参加や防災用品の見直しを行いました。今後も訓練計画に沿って実施を重ねていきます。

(2) 組織強化への取り組みでは、新たなユニットリーダーの育成を行いながら業務の検討、見直しを行いました。また、介護主任を事務所に配置することにより、各部署との連携強化と組織統制を図りました。

(3) 人材育成・確保への取り組みとして、外部研修や内部研修を昨年度より充実させ、人材の育成に努めました。また、パートや非常勤職員との面談を実施、新人職員とのエルダー・メンター面談も実施しました。

(4) 経営基盤充実への取り組みについては、三施設利用者情報交換会等様々な情報を把握できるようにすると共に、日の出町事業者連絡会やブロック会等に参加し、地域の情報収集にも努めてきました。

基本目標について

福陽会の基本理念については、毎日の唱和を継続するとともに統括施設長に来園いただき、職員に対し法人設立当時の思いや理念について語っていただくことで福陽会の職員としての意識の向上を図りました。また、新入職者については、統括施設長の書かれた文章から福陽会理念についての説明を行うことで基本理念の浸透につとめた結果、新人であっても理念に共感でき、それを基としてケアを行っていく事ができる者が増えていきます。

基本方針について

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理、その他の医療を要する方等について、これらの利用者様が尊厳を保持しその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、施設顧問医師指導の下、各部署連携し必要な介護サービスを提供し、地域の福祉の増進を図ることを目的として事業を行いました。

(1) 利用者様の健康状態、身体状況を充分考慮に入れ、各部署の職員による情報の提供と連絡、相談を密にし、職員 1 人 1 人が利用者様を良く観察し、介助が必要な利用者様が最低限度の援助で快適な生活が送れるための環境作りに努めました。

(2) 地域社会との交流を深めるため、民生委員やボランティア、地元老人会との交流会を開催し、情報の交換や地域のニーズ及び利用者家族様の動向、希望等を聞き施設運営に反映させました。

(3) 利用者様が施設行事に気軽に参加できるよう、地元ボランティアに協力をお願いし、日常生活に変化と季節感が持てるような施設での雰囲気作り、催し物を工夫し開催しました。

28年度の重点目標について

平成 28 年度の介護保険制度形成に対応すべく、より堅固な体制を整えるよう創意工夫を行いました。高齢福祉の厳しい現状においても安定した経営基盤で、利用者のニーズに合ったより良いサービス提供と良質な人材の確保・安定を図り、今後を見据えた施設運営に努めました。統括施設長の思い（法人理念）である「こころある介護」を職員全員が継承し、一丸となって良質なサービスを提供して行けるように努めました。重度化する利用者様の健康的な生活を維持し QOL を高めるため、施設顧問医師の指導の下、他職種協働にて支援を行いました。

稼働率は、特養 98.7%、ショートステイ 64.25%、平均介護度 4.1 となりました。今後は、常に稼働率を意識し、さらに幅広い地域からの利用者獲得が出来るように居宅支援事業所への営業活動を強化し、ケアマネジャーとの繋がりや連携を密に行っていきたくたいです。また、特養入所を見据えたショートステイの利用者の受け入れを推進していき稼働率アップを図っていきます。

3 大行事をはじめ、毎月の外出レクやユニットレク、クラブ活動を通じ、季節感のある行事の提供を行ってきました。ボランティア委員会を設立し、初めての試みとして「ボランティア交流会」を開催し、日頃の活動に感謝すると共に積極的な受け入れ事業所として確立することが出来ました。ボランティアの方々にも大変ご好評をいただき、日の出町の広報にも載せて頂きました。今後も継続して開催していきたくたいと思います。

地域介護・福祉空間整備等施設整備推進交付金のうち介護従事者の負担軽減に資する介護ロボット導入推進事業を活用し、2 台の腰補助用マッスルスーツを導入しました。職員の腰痛予防に活用していきたくたいと思います。

施設顧問医師を中心に多職種連携を図りながら利用者様、ご家族様のご意向を受け 15 名の方の看取りさせて頂きました。「ここで皆さんに看取って頂いて本当に良い人生だった」等感謝のお言葉を頂き、職員一同励みになりました。

今後も専門職やユニットリーダーを中心に福陽会の理念を具現化できるように経営基盤をしっかりと固めつつ「こころある介護」を実践し、「利用者も職員も笑顔あふれる施設」を目指していきます。

2. 職 員 構 成 3月31日現在

担当職	職 名	職員	非常勤
施設長		1	
顧問医師			1
産業医			1
副施設長		1	
事務長		1	
事務員		1	2
生活相談員		2(2)	1(1)
介護支援専門員		2(2)	2(2)
介護職員		28	30
医務	医師		3
	看護リーダー	1	
	看護職員	2	2
機能訓練指導員	機能訓練指導員	1	
	P T		1
厨房	管理栄養士	1	
	調理員	4	6
保守管理・宿直	介助員	1	5

* 兼務職員は主たる職務に記載し、兼務している職務では () 内に記載

人件費実績：312,267,717 円

福利厚生費実績：3,757,840 円

3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書

委員会

今年度は、前年度の同一メンバーが会議に出席するという反省を踏まえ、終日行っていた会議日を第1～第4火曜日に振り分けて実施した。それにより、自分の担当の委員会に出席する事ができ、委員会に責任を持って参加する事ができた。意見も以前より出てきており、業務改善、ケアの質の向上に繋がっている。

1) 苦情・拘束委員会

毎月、意見箱の確認、ご家族からの意見に対し検討を行い、より良い施設づくりに努めた。

拘束に関しては、今年度対象者はおらず、拘束ゼロを目標に拘束しないよう取り組んだ。また、身体拘束について内部研修を行い、身体拘束に関しての知識、身体拘束をしない為の技術向上に努めた。

2) 行事計画委員会

施設全体で取り組む姿勢が強まり、最大限の成果を上げるよう行事に力を注ぐことが出来た。次年度も一層盛り立て最大限の成果を出すよう他部署連携を図り、施設全体で行事に取り組んでいくようにする。

3) 虐待防止委員会

虐待については、各部署・フロアからの報告は聞かれなかった。また【虐待の芽チェックリスト】のアンケートを3か月ごとに実施を行い、職員が自身への振り返りを出来るようにした。

次年度よりチェックリストをより書きやすいように変更し4か月ごとに変更して実施し、虐待への意識がより深いものになるよう目指していく。

4) 事故防止委員会

事故防止委員会では、職員連携を図り安全に配慮を行い、事故、アクシデントが発生しないよう事故防止に努めた。毎月各担当者がフロア内で発生した事故、ヒヤリハットの件数、時間の集計を行い、事例を1件挙げ状況・原因・対策の評価をし、再発事故防止に向けて会議にて話し合いを行った。

5) 研修委員会

今年度も予定されていた研修を全て行うことができた。また各ユニット内で行う研修もユニットリーダーの協力で行うことができ、研修報告書も各ユニット全て提出された。

次年度に向けての反省として、もっと体感出来るような研修内容の取り入れ、講師のプレゼンテーションの向上等が挙げられる。委員会として、各部署や講師との入念な打ち合わせを多く行いより良い研修内容になる様に努めて行く。

6) 褥瘡予防委員会

委員会開催を予定通り実施でき、褥瘡形成者やリスクの高い利用者様の情報提供を行うことができたと考える。しかし、高リスク者の把握に対しては全職員への周知には至っていないと考えるため、次年度改善に努めていく。また、褥瘡予防へのアプローチを強化していきたいと考える。

7) 感染症委員会

感染症の予防、蔓延を防げるよう様々な活動を行った。出勤時には全職員を対象としてうがい・手洗いを実施し、チェック表を用いて全職員に促しを行っていった。

7月と12月の2度、施設内で感染症にまつわる内部研修を行い、感染症に対する理解を深めた。

施設の利用者様が感染症を発症した場合、臨時の感染症委員会を開き早急な対応を心掛けた。

特に感染症が蔓延しやすい時期は利用者様の状態把握をしっかりと行い、異常があれば早期に看護師に連絡し、対応をとるよう周知徹底した。

8) 衛生委員会

職員の定期健康診断を実施した。また、産業医の指導のもと労働者の健康管理の維持に努めた。

衛生管理者等による施設内巡回を実施し、職員が仕事しやすい環境整備に努めた。

ストレスチェック制度の施行に伴い、今年度から職員のストレスチェックを実施し、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止した。

9) 排泄委員会

排泄ケアマニュアルを作成し、排泄介助に関する基本的なことを再確認するとともに、施設内での統一を図った。

利用者様一人一人の陰部等の状況把握に努め、利用者様に合ったオムツやパッドの使用方法について考えた。また、処置のある方や皮膚状態の悪化が考えられる方に対しては排泄介助の回数を増

やし、毎回陰部洗浄を行う等各ユニットにて対応方法を考え、医務と連携して軽減、予防に努めた。

10) 業務検討委員会

法人の基本理念は毎朝放送する事で職員一人一人が周知するように取り組んでいる。各ユニットが事業計画に掲げた目標を周知し、ユニット内での話し合いを増やし、業務が円滑に進むように努めた。

11) 栄養会議

お食事に関するイベントごとの確認や諸連絡の伝達を実施した。

毎月の体重測定や、採血等の結果についてピックアップし、低栄養のリスクがある利用者様のケアについての話し合いを実施した。

12) リーダー会議

リーダー会議では、施設全体についての議題が多かった。ユニット内でのミーティングは行えたが、ユニット内の問題点、良かった事、取り組みについての議題は少ないという課題が残った。次年度は、それぞれのユニットの取り組みを参考にし、各ユニットをより良くしていきたい。

13) 入浴委員会

ゆっくり安心して入浴できるよう、入浴する利用者様の人数や職員のシフトを検討行った。入浴場の環境整備を行いシャンプーボトルやタオルを置くための洗えるキャスター付きの台を設置する。

14) ボランティア委員会

ボランティアの新規受け入れや連絡調整を行い、利用者様に楽しんで頂くよう努めた。また、普段お世話になっているボランティアさん達にお越し頂き、ボランティア交流会を行った。交流会を行う事で、職員とボランティアさん、ボランティアさん同士の交流が図れ、とても良い機会となった。今後もボランティア交流会を実施していきたい。

会議費実績：70,480円

4. 処 遇 報 告

1) 2F 事業報告・活動報告

(1) あやめユニット

明るく、元気ををモットーに笑顔溢れるユニットを目指す事を目標に取り組みました。

利用者様一人一人とコミュニケーションを図り、多くの笑顔を引き出す事ができた。

普段、外出の機会が殆どない利用者様と、紅葉ドライブに出かけて季節感を感じていただく事ができた。今後も、利用者様が笑顔で安心・安全に生活できるように努める。

(2) さゆりユニット

ショートステイ利用者様が「また利用したい」と思っただけの様な雰囲気ユニット作りを目指してきた。リビングには季節に応じて装飾を行い、その日の利用者様に合わせた机の配置など考え、より過ごしやすいように環境整備を行った。

毎日変化していく環境の中で、職員が利用者様の情報を把握しやすい様、報告・連絡・相談の周知を行った。月1回のミーティングを行い、利用者様についての意見交換する機会が、今まで以上に増えた。入所受け入れの方法についても、簡潔、かつ忘れ物のないよう試行錯誤を行ってきた。

ショートステイ利用者様のADL維持を目指し、リハビリ体操やレクリエーション(ぬりえ、歌、写経)、散歩など個々に合わせた対応を行う事が出来た。クラブや行事を楽しみに、ショートステイを利用される方も多くいらっしゃる。

(3) さくらユニット

ご利用者様お一人お一人を大切に、明るく楽しいユニット作りが出来た。ご利用者様の笑顔も多く引き出し生活して頂けたと思います。今後もチームワークを大切に、ご利用者の方中心の生活を支えて行くようにする。

(4) みもぎユニット

昨年度より職員一同関わる機会を増やすよう心掛け、実施することが出来た。

職員1人ひとりが笑顔にてケアに携わり、ゆったりとした生活が行えていた。次年度も利用者の方の笑顔を大切に心地よい生活をして頂くよう支援をしていく。前向きに利用者の方に寄り添うケアが見られ、ニーズに対応したケアが行えてきている。今後も利用者の方が何を求めているのかを把握し、その方の要望に沿う支援をしていくようにする。

日々の生活の場でコミュニケーションを多くもつ機会を増やすようにしたことにより、利用者と共に一緒に歌を歌ったり、体操する空間づくりが行えた。今後も日常の習慣として取り入れていくようにする。不足していることもあるが介護職としての意識づけが出来てきている。日常の生活の中で利用者の笑顔もよく見られている。引き続き職員のスキルアップを強化し、ケアの質の向上をしていく。

2) 3F 事業報告・活動報告

(1) すみれユニット

利用者様が安心して生活して頂ける様支援を行った。情報の共有化を図る為業務内容の変更を行った。朝礼方法の見直し、夜勤者への連絡方法の見直し、ノート活用の見直しを行った。朝礼はユニット内独自で行い、夜間帯の様子、昨日の様子等詳細に伝えることで職員の意識変化を促した。また夜勤者への連絡も日直が必ず行くと取り決め、事故の無い様に周知を行なった。

連絡ノートは必ずサインをすると決め、周知を行なった。利用者様のヒヤリハットが少なくなったと思われる。

生活リハビリを強化し残存機能を活かす事を目標にしていたが、体調の変化などで出来る事自体が減ってしまい、強化に繋がらなかった。残存機能が高い方に関しては、維持強化は出来たと思う。来年度も継続して行く。

職員の笑顔を決やさないを最後の目標に掲げていたが、これは達成出来たと思われる。リーダーが常に率先し動き、他職員のモチベーションを維持出来るよう、相談や連絡を図りコミュニケーションを浸透させてきた。来年度も継続して行っていく。

(2) つばきユニット

利用者様1人1人のADLを把握し、出来る事を見極めながら対応した。食事のエプロンを外し、車椅子では無く椅子に移乗し自力で食事摂取できるようになられた利用者様もいらっしやった。

活気ある生活を送って頂けるよう、フロアでのレクリエーションを行い、体操やボール投げ、ペットボトルでピンを作りボーリング大会を開催した。利用者様の楽しそうな笑顔が沢山見られたのは、とても良かったと思う。

利用者様とコミュニケーションを多くし、不穏な状態にならないよう、職員一同笑顔で対応出来たと思う。

(3) つつじユニット

利用者様が明るく楽しく過ごせ、笑顔が絶えない家庭的なユニットを目指した。

毎日リハビリ体操を行い、身体を動かすことの楽しさを感じて頂く事が出来た。また、ご自身で手足を動かすことが出来ない利用者様も職員が補助しながら参加して頂き、ユニット全員で取り組むことが出来た。

利用者様と職員で季節ごとに貼り絵や塗り絵を行い、ユニット内を常に明るい雰囲気にする事を心がけ、自然に笑顔で接することが出来、明るく家庭的な雰囲気を作ることが出来た。

外部の研修で学んだことを実践し、実際のケアに役立つことが出来た。

(4) あじさいユニット

出勤時、退勤時の挨拶、日常的なコミュニケーションをとることで信頼関係を構築することが出来た。ゆっくり時間をとり、ひとりひとりに対して接することがとても大事なことであるため、これからも継続して行っていきたいと思う。

定期的な清掃により、清潔な空間での生活を提供できたと思う。衣類は汚れている時に更衣を行うようにした。しかし、同じ衣類ばかり着回してしまうこともあったため、更衣の際は同じ服ばかりにならないよう注意する必要がある。

10月に山梨県への日帰り旅行を計画し、実行した。河口湖のふもとでほうとうを食べ、猿回しを観覧して頂いた。食事美味しく召し上がられ、猿回しもとても好評であり、利用者の皆様がリフレッシュすることができたと思う。

3) 4F 事業報告・活動報告

(1) ひまわりユニット

メリハリのある日々を過ごして頂く為に、折り紙やはり絵などのレクの時間を多く設け、楽しんで頂いた。また、利用者様1人1人と、会話にて多くのコミュニケーションを図り、不安や不満を未然に防ぐよう努めた。

気分転換をする為に、デッキにて利用者様と職員でお茶を楽しんで頂いたり、日光浴をしたりして過ごす時間を作り喜んで頂いた。

常に笑顔を絶やす事のないよう、職員間でのコミュニケーションを取り、話し合いや意見交換をし、質の高いケアに努めた。

(2) コスモスユニット

利用者様1人ひとりの個性を尊重し、その人がその人らしく笑顔で充実した生活が過ごせるよう取り組みました。

利用者様1人ひとりの体調面・精神面の把握をする為、身体・表情・様子観察などの体調変化の気づきにて他部署との連携を図りました。またコミュニケーションを多く持ち、安定した気持ちを持つよう配慮し、職員間での情報交換を行いました。

季節行事に多くの利用者様に参加して頂き、少人数の外出レクリエーションにも順番に参加して頂き、楽しかったと明るい表情見られました。また天気の良い日にはテラス前で歌を唄われ交流を深めながら、気分転換を図りました。

職員一人ひとりが健康管理に気を付け、気配り・目配り・思いやりをもって、業務につきました。また介護・コミュニケーション技術の向上を目指す為、ミーティングを開き、現状の見直し・今後の取り組みなどの話し合いを行いました。

4) 移動理美容

理美容は月に理容が第2・4月曜日の2回、美容が第1金曜日の1回来ていただいております。ご利用者様、そのご家族がどのくらいの頻度で利用されたいか、どのくらいの長さがいいのか等必要に応じて理容師・美容師に代弁して意向をうまく反映できるように努め、実行できた。今後も日常の中での聞き取りや利用者様入所時・ご家族面会時に意向を聞いてうまく伝えられるように努める。

5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告

勘定科目	内容	金額	勘定科目	内容	金額
介護用品費	オムツ	9,239,834	日用品費	トイレットペーパー、ティッシュペーパー	284,854
	タオル	54,202		煎茶	171,748
				ブラシ	132,692
				その他	753,957
	小計	9,294,036		小計	1,343,251
被服費	寝具設備	3,972,564			
	小計	3,972,564			
			合計	14,609,851	

○給食費実績：27,305,474円 ○介護用品費実績：9,294,036円 ○医薬品費実績：3,048,061円
 ○日用品費実績：1,343,251円 ○被服費実績：3,972,564円 ○消耗器具備品費実績：537,735円
 ○保健衛生費実績：1,109,894円 ○車輛費実績：510,640円 ○水道光熱費実績：19,033,655円

5. 厨房事業報告

《衛生管理・食事提供》

- ・手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。
- ・衛生マニュアルに従った業務、非加熱食材の取扱方法、加熱温度と時間の徹底を行い、安全なお食事を利用者様に提供することが出来た。
- ・フロア라운드의強化や嗜好調査を行い、利用者様のニーズに応える献立の作成と調理法の工夫を行った。

《行事食・麺の日・出前の日・喫茶の日・誕生日会実施内容》

- ・季節の行事食：月1回(正月は三が日)実施。カード装飾や、盛り付けに工夫を凝らした。行事食は利用者様に特に喜んで頂くことが出来、バリエーションを増やし、更に利用者様のニーズに応えるようにしていく。
- ・麺の日：うどんやそば、ラーメン、冷やし中華やそうめん、スパゲティ、焼きそば等を実施した。
- ・出前の日：鰻⇒形態に合わせて刻んで提供した。寿司⇒原則として米飯の方は握り、粥の方には刺身と粥、極菜・ペーストの方は細かく刻んで提供した。生ものが嫌いな方には、助六での提供も行った。
- ・喫茶の日：毎月第4日曜日に、サクソボランティアの演奏と共にデザートとコーヒーを提供した。デザートは毎回工夫を凝らし、時には利用者様に手伝っていただきデコレーション等も楽しむことが出来た。
- ・誕生日会：・誕生日会：毎月第3水曜日に実施、誕生月の利用者様に事前に招待状をお渡しし、当日は手作りケーキとコーヒー、歌や演奏等を楽しんでいただくことが出来た。

《代替食実施状況》

青魚/魚/鶏/納豆/牛乳/青菜/ルー禁/麺/パンその他 他の料理で対応
丼別盛り、あんかけ別盛り、主食おにぎり 盛り付け時に対応

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

- ・毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)についてのご意見をいただいた。
- ・厨房会議を毎月必ず行い、その月に発生した取り組み課題をまとめ、部署全体での問題解決に努めた。業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。また、給食懇談会の内容も報告し、業務改善の参考とした。
- ・調理ノートの作成を行い、調理法の統一を図り、誰が調理しても同じ出来栄になるように努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

- ・医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。
- ・多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。低体重の利用者様数は、引き続き前年度と比べ改善がみられた。

6. 医務室利用者健康管理報告

【年間目標】

- (1) 利用者様の、身体的・精神的変化に気づける様医務室内での報告・連絡・相談を密にとり異常の早期発見に努め、安定した生活を維持できるよう援助する。

実施方法と内容

- ① 必要に応じて観察（体温・脈拍・呼吸・血圧・S p o₂等の測定）を行い異常の早期発見に努める。又、状態変化時・新入所時・退院時などの状況変化時も定期的に観察を行い異常の早期発見に努める。
- ② 年一回、利用者健康診断（胸部レントゲン・血液検査・尿検査・心電図）を施行し、状態観察に努める。又、医師の指示のもと随時血液検査など必要な検査を行い身体状況の把握に努める。
- ③ 医務室内での連絡・報告・相談を密にとり身体的・精神的変化に留意する。
- ④ 他職種との連携を図り、利用者様が安定した生活を維持できるよう変化に注意観察し異常の早期発見に努める。
- ⑤ 高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や疾病の悪化を未然に防げるよう観察・早期に努める。又、身体状況の悪化がみられる際は、速やかに医師へ報告を行い必要時は医療機関へ受診対応を行う。
- ⑥ 夜間帯の医務不在時は介護職員との連携を図る為、オンコール対応を行い迅速な対応に努める。
- ⑦ 利用者・家族のニーズを把握し、他職種との連携を図り安定した生活が維持できるよう看護援助の提供に努める。
- ⑧ 日々の援助や身体的対応など統一した観察・援助が行なえるよう、看護面での知識向上に努める。

年間目標(1)に対し、医務室内での連絡・報告・相談の実施頻度は上がっていると考えているが、担当制となり担当者が不在時の報告・連絡・相談方法の確立が今後の課題と考える為、次年度に繋げていく。又、急変での死亡者が数名あった為、今後も他職種との連携を図り異常の早期発見に努め安定した生活の維持ができるよう今後も努めていく。

季節の変化などで身体的変化を軽減できるように、他職種へ情報提供が行なえたと思うので、今後も高齢者の身体的変化も踏まえ情報提供に努め急激な変化の予防に努めて行く。

- (2) ご家族様と連絡を密にとり情報提供し信頼関係のある看護提供を行う。

実施方法と内容

- ① 状態報告や内服変更等の連絡を密にとっていく。
- ② ご家族面会の際に信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図る。

年間目標 (2) に対して、ユニット担当看護が連絡を取って行く事で、ご家族様とのコミュニケーションが図れ信頼関係の構築に繋がってきていると考える為、今後も実施し安心して過ごして頂けるように努める。しかし、ご家族連絡がなかなかつかない方もおり、急変時の連絡等考えると連絡が付くように呼びかけを行っていく事が今後の課題と考える為、他職種と連携を図り対応を検討していく。又、他職種との連絡後の確認方法も今後の課題と考える。

- (3) 終末期をその人らしく安らかに迎えられるような援助に努める。

実施内容と方法

- ① 苦痛の緩和に努める。
- ② 精神的な安定を図る。
- ③ 定期的なバイタルサインを実施し、医師との連携を図り家族に情報提供を行う。
- ④ 他職種との連携を図り、食事・水分・排泄・睡眠等の管理を行う。

年間目標 (3) に対し、看護の視点から安らかな生活が送れるように関わりを持つことが出来てきていると考えるが、その人らしい生活については安全に配慮しながら希望に沿ったケアの提供を行うには、今後も他職種と意見を交わし合い実践につなげていく必要があると考える為、次年度も継続していきたいと思う。又、今後も苦痛の緩和を図り他職種が統一したケアが実践できるように助言を行い安楽に過ごせるように努めていく。また、家族との連携をはかり、家族の思いに留意し対応を行っていく。

(4) 感染症発症予防のため活動・指導を行い、蔓延予防に努める。

実施方法と内容

- ① 職員の感染症予防に対する知識向上を図るために、感染症委員と連携し適宜 指導・研修を率先して行う。
- ② 一処置・一手洗いを徹底し、二次感染の予防に努める。
- ③ 他職種と連携を図り、食事・水分摂取状況を把握し個々に合わせた対応を検討し、摂取できる環境を整え免疫力の維持・向上に努める。
- ④ 換気・湿度調整などの環境整備を行うことで感染症発症の予防に努める。
- ⑤ 利用者様の日常生活状況を観察し、感染症発症の兆候の早期発見に努める。
- ⑥ 医師との連携を図り、簡易キットを使用し感染症の有無の判定を速やかに行い適切な対応を開始できるように努める。
- ⑦ 感染症発症時は、状況を把握し速やかに対応を実施する。又、他職種へ情報提供し連携を図る。

年間目標 (4) に対して、職員への知識・技術の向上については産業医による指導や感染症委員からの研修が実施されている事や、感染症発症時の速やかな対応が行えている事から向上に繋がっていると考える。今後も産業医の指導内容や感染症研修会にて知識・技術の向上出来るように努めて行く。今年度は感染症発症が2件あり蔓延には至らなかったが、感染経路が明らかになっていないことから今後も職員や面会者の状態把握に努め、感染症予防に努める。次年度も感染症蔓延の為に知識・技術の更なる向上に努め、他職種連携のもと速やかな対応が実践できるよう情報提供や指導的立場で取組みを行っていく。

(5) 褥瘡予防に重点をおき、他職種との連携を図り指導を行っていく。

実施方法と内容

- ① 入所時や3ヶ月に一度褥瘡アセスメント表を作成しリスクを把握する。又、褥瘡ハイリスク者に対しては、個別の計画表を作成し他職種との連携を図り褥瘡予防に努める。
- ② 職員の褥瘡予防に対する知識向上を図るため、適宜 研修・指導を行う。
- ③ 加齢による身体的変化への意識向上に努め、バリア機能維持に対する取り組みをする。

年間目標 (5) に対し、研修や指導を実践しているが、褥瘡発生者がいるため今後も褥瘡のメカニズムについて指導を行っていく必要があると考える。又、アセスメントの実施を活用し、他職種に情報提供を行いリスクを把握したうえでケアに努める事が出来るようにすることが必要と考えるため次年度に繋げていく。体位変換やポジショニングについては除圧に繋がっていない部分がある為、今後も一人一人に合った体位を検討し対応に活かす事で褥瘡予防に努める。

通院・入退院履歴

	通院	入院	退院
4月	12名	1名	1名
5月	11名	0名	0名
6月	8名	2名	0名
7月	6名	2名	0名
8月	5名	4名	4名
9月	6名	0名	2名
10月	7名	0名	2名
11月	0名	3名	2名
12月	4名	0名	1名
1月	10名	0名	0名
2月	8名	1名	0名
3月	5名	0名	1名
	年間通院者数 82名	年間入院者数 13名	年間退院者数 13名

3月31日現在の医療ケア介入必要者

胃瘻からの経管栄養実施者	8名
点滴施行者数	2名
血糖測定者数	0名
在宅酸素使用者数	0名
常時、口腔・鼻腔内からの喀痰吸引が必要となる利用者数	1名
褥瘡処置施行者数	16名
褥瘡以外の皮膚処置施行者数	33名
ターミナルケア対応者	6名
合 計	66名

平成28年度死亡退所者

入院先の病院での死亡	0名
施設内での死亡	4名
施設内ターミナル対応にて死亡された方	11名
合 計	15名

7. リハビリテーション報告

(1) 総括

平成28年度リハビリテーションにおいては、第三サンシャインビラ独自のリハビリテーションの構築と、利用者様個々に合わせた適正な機能訓練計画書作成のために、新たにFIM評価を取り入れました。評価は介護職目線とリハビリ専門職目線それぞれからの評価により問題点を拾い上げ、理学療法士とともにプログラムを作成しました。また利用者様の既往歴・現病歴の把握、事前のバイタルチェック、他職種との情報共有などにより安全性を確保しました。医師、理学療法士の指導の下、利用者の心身の状態、施設での生活におけるニーズなどを考慮し、個別的で実効性のある訓練計画の策定を目指しました。

(2) 実施事項

- ①理学療法士による評価・プログラム作成
- ②関節可動域訓練
- ③基本動作訓練
- ④筋力訓練
- ⑤体位交換や生活リハの考え方や実施方法等ワーカーへの指導
- ⑥生活リハビリプログラムの根本的見直し

(3) 結果

- ・関節可動域の維持・拡大
- ・基本動作能力の維持・向上
- ・疼痛の軽減

対象者の7割近い利用者様に機能の維持・拡大という結果が得られた。また、この結果とともに、リハビリテーションの過程においても大きな成果が得られた。利用者様との信頼関係の構築と適切なコミュニケーションにより、法人理念に掲げられる利用者様の「個性の尊重」「希望と生き甲斐」に繋げることができた。利用者様の前向きな発言や笑顔、頑張る姿が多く見聞きされるようになった。特に「笑顔」は多々見られるようになりユニット内の雰囲気も明るくなったように思える。

生活リハの根本的な見直しにより職員にも「リハビリ」の意識が高まり少しずつ日常生活全般がリハビリという意識が浸透してきている。

以下に機能の著明な改善を見た事例について紹介する。

・歩行が可能になった事例（見直した生活リハが顕著な効果をあげた事例）

入所時にはバルーン装着、車椅子使用。ADL 全般全介助という方がいました。入所時点では立ち上がりも困難であったが現場ワーカーの努力によりバルーン抜去され立ち上がりが可能になりトイレでの排泄が可能になった。日々生活リハの形で立ち上がることで下肢筋力増強を図られた。ご本人の「もう一度歩きたい」という強い願望があり順調に筋力回復が見られた。立ち上がりから立位における足踏みを経て手すり支持にて歩行が可能になった。現在ではシルバーカーを使用して歩行状態も安定してきている。今後は更なる安定歩行が可能になるよう鋭意訓練継続中である。

・歩行機能が向上してきた例

入所中に脳梗塞を発症し入院加療を経て帰苑された。帰苑時廃用が進み歩行は困難、全体的に活気は見られなくなってしまった。現場ワーカーによる積極的な声掛けや排泄時のトイレ誘導が功を成し、徐々に活気がよくよみがえってきた。活気が出てくるに従いご本人の中にも「もう一度頑張る」という気持ちが大きくなった。徐々に離床時間も増え基本動作の安定が見られた為、理学療法士と相談の上平行棒を使用しての歩行を行ってみた。最初はふらつき等も見られたが、回数を重ねるに従い安定した歩行が出来るようになってきた。現在では杖歩行に向け下肢の筋力 UP や歩行バランスの安定を図っている。ご本人の表情も明るくなりご家族の方も喜ばれている。

(4) 課題

リハビリテーションにおける著明な効果はご本人の「やる気」に担う部分が多いものである。「やる気」という強い意志を持てる利用者様は決して多く存在はしない。しかし、介入等コミュニケーションの構築により、利用者様が積極的に身体を動かしたくなる環境は作れると思われる。この環境作りをしっかりと行いたい。

また、リハビリテーションとは特別な訓練のみを指すものではなく、生活活動すべてに付随できるものである。さらに、リハビリテーションは身体機能の改善のみを目指すだけではなく、個性を尊重したより良い生活（QOL 向上）を目指すものでもある。このような広い枠組みでリハビリテーションを捉え展開していくこと、つまり、「生活の中でのリハビリ＝生活リハ」の充実が今後の課題である。

さらには、ワーカーに対して体位交換やポジショニング、シーティング等の指導を行い利用者様に安楽な姿勢が保持出来るようにする。安楽な姿勢により体圧の除圧をし褥瘡の予防を図りたい。

8. 生活相談員・介護支援専門員 事業報告

1. 利用者様支援、多職種連携の調整役

福陽会の基本理念である「人がその人らしく生活できる環境づくり」を常に考えながら、各階に相談員を配置して、日頃から利用者様へのご様子や状態確認の声掛けや観察を行い、介護現場職員をはじめ、医務・リハビリ・栄養等各部署、またご家族からも利用者様の情報を集めて、またそれを各部署へ発信し、お一人おひとり利用者様の環境を整えていくよう努めた。生活相談員がユニット内を回り、利用者様への声掛けや職員から情報をもらい利用者様のご様子を確認して、ご本人のニーズを把握する。その情報を多職種でアプローチできるように調整を行い、解決できるよう支援を行った。また、利用者懇談会を適宜実施して、利用者様の生活への良い点や悩みや要望等の意見を聞く機会を設けた。開設から5年を過ぎ、徐々に各部署の情報の共有の流れや形ができてきたため、今年度も生活相談員が調整役となり、情報の伝達・共有をうまく行い、利用者様へのチームケアができるように心がけていく。また、医療面でのご利用者様の状態に関する連絡は医務より行っており、職種間でより多くの連携の必要性を感じた。現在介護主任を、現場の全体まとめ役として、配置しているため、現場との連携が前より取りやすくなってきている。今後も多職種間で細かい連携を行っていく。

2、ご家族、施設間調整

施設と利用者様ご家族との橋渡し役として利用者様のご様子を都度お伝えし、ご家族との関係調整役として動いたことで、それぞれのご家族より安心して利用者様を任せていただけた。また、信頼関係も築けており施設行事に参加してくださるご家族や、ご本人の状態変化時等には面会に来てくださり、病院等への付き添いにも行ってくださるご家族様が大多数おり、ご家族様と協力してご本人の生活を支援できた。今後もご家族への連絡等しっかり行い、安心していただけるよう努めていく。医療面でのご家族への連絡は医務より行う体制をとっているため、今後も細かく連携を行っていく。

3、利用者様の入所前、入所時の支援について

入所を希望する方がいらした時に、その方が当施設が提供するサービスを本当に必要としている方なのかどうか、まずその人のニーズは何かを見極めて情報提供を行った。また、利用者様入所時にはご本人、ご家族より聞き取りを行い、これまでの生活歴、趣味、嗜好等々ご本人の情報を収集して各部署へ共有してケアができるようにした。

利用者様が施設へ入所する前の事前面接を近隣の場合は徐々に行うことができており、相談員、看護師のみならず、介護主任の同行も数回行えた。今後も可能な限り、相談員と多職種にて事前面接を実施していき、入所前の情報共有を進めていく。

4、介護職員へのスーパーバイズについて

各ユニットリーダーの現場指導とは別に各フロアの相談員が職員のスーパーバイザーとなり、フロアをラウンドする際等に利用者様に対するケアや対人への態度等の確認を行い、指導、評価を行った。また、介護主任と共に、職員の職場環境の変化や日頃の様子等にも目を向けて、ストレスやメンタルの面での職員の相談役としても担えた。

① 入所時面接について

入所時に面接を行い生活環境を聞き取り把握することで、リロケーションダメージを最小限に抑え、施設での生活に移行できるように、支援を続けた。24時間シート作成も継続して行い、注意点を指摘し、他職種に発信して情報を共有出来るように努め、新規ご利用者様の支援をしていった。

入所時に把握しきれない事もあるため、入所後も継続して情報収集を行い、その人にあった支援を出来るように努めた。

② ケアプラン作成について

聞き取りを行った情報を元に、施設サービス計画書を暫定に作成し、ご家族・ご本人に説明・同意をしていただいた。そして1か月後に初回カンファレンスを開催し、その人らしい生活が送ることが出来るよう、新規プランを作成した。

またADLの変化が著明に表れた時には、緊急カンファレンスを開催し、状態に応じたプランを作成すると共に支援できるように努めた。また、目標に関してはより具体的な言葉で、その利用者様のことを考えながら作成するよう努めた。

新規プランに関しては、ADLに変化がなかった場合には3か月、更新に関しては6か月と設定。ADLに変化があった場合には期間は3か月とするも、その都度様子を観察し作成した。ターミナルケアに入った方に関しては、状況把握に努め3か月に1度の見直しを行い、計画書を作成することになった。

③ モニタリングについて

1か月ごとに支援経過としてモニタリングを行い状態を把握していた。介護士にはちょうじゅの中にある支援経過に記入をしている。また介護支援専門員はちょうじゅのモニタリング用紙に3か月後・6か月後の2回行い、項目に合わせて観察事項を記入して継続するか変更するかの資料とした。

またターミナルケアの方については、3か月ごとのモニタリングを行い、より細かに観察を行っていった。

④ ケース会議について

毎月第1・第3火曜日の午後に開催予定とし、場合によっては第2・第4火曜日にも開催した。職種間調整が難しい場合には、介護支援専門員による聞き取りを行ったが、基本的には調整をして、ケース会議を開催。職種間の情報共有にて、利用者様の状況を把握。プラン作成に繋げ

た。またケース会議のコーディネート・進行して、各職種の専門性を尊重するようにまとめるよう努めた。

今後のケース会議は第4火曜日は2階、第2水曜日は3階、第3火曜日には4階と分け、各部署に対し書類の締め切り日をしっかりと伝え、情報を共有していくように努めて行きたい。

⑤ 介護職員へのスーパービジョンの展開

施設サービス計画書についての内部研修や、モニタリング時に介護職員に対し、施設サービス計画書の必要性についてスーパービジョンを展開した。記録の書き方や観察の注意点などを都度介護職員に話をし、利用者のニーズに沿えるように注意を払っていった。

今後も引き続きスーパービジョンの展開を図り、意識を向上していくよう努めて行きたい。

9. クラブ活動実績報告

①クラブ活動について

出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声掛けに努め、楽しいひと時を過ごしていただけたと思う。

趣味・嗜好を継続して行えるよう様々な状況を考慮し、利用者の希望に出来るだけ添うよう努めた。又、ご自身の得意とする力を発揮していただき、自信を持って積極的に参加していただけるよう支援した。参加してみたいと興味を持った活動には参加していただき、新たな楽しみを感じていただけるよう努めた。クラブ活動に参加することで、季節や環境の変化を感じ、他者との交流を図りながら楽しい時間を過ごしていただけるよう努めた。

継続してクラブ活動に参加されている方は活動の成果も見られ、活動日が楽しみと、ほぼ満足していただけたように思う。

②クラブ活動名と講師名

クラブ名	講師名
華道	根守 和子先生
茶道	片岡 明美先生・お弟子様2名
書道	石井 亮子先生
手芸	福田 仁美先生 他2名
陶芸	岡部 貴久子先生 他2名
音楽	澤田 康次先生
童謡	谷津 恵理子先生

華道クラブ活動報告

活動回数	21回	参加延人数	333名	平均参加人数	15名	担当：井上
------	-----	-------	------	--------	-----	-------

【活動報告】

- 第2・第4金曜日に活動
- 季節ごとに咲く花を楽しみながら季節感を感じていただけた。
- 活動を通して利用者間での助け合いや、他の方の生けた作品を見ながら交流をもつことが出来た。又、先生にご指導いただきながら先生とのコミュニケーションを図る事が出来た。

【月別活動報告】

月	内容	月	内容
4月	季節の花を生ける	10月	季節の花・施設の文化祭用の作品
5月	季節の生け花・フラワーアレンジメント	11月	地域の文化祭に出品
6月	〃	12月	フラワーアレンジメント・季節の生け花
7月	〃	1月	感染症対応の為活動なし
8月	〃	2月	季節の花を生ける
9月	〃	3月	〃

職員担当フロア：3F西

茶道クラブ活動報告						
活動回数	22回	参加延人数	256名	平均参加人数	11名	担当：柴田
【活動報告】						
1. 第2・第4水曜日に活動						
2. 先生のご指導のもと、参加者がお手前をし、お抹茶の味と、香りを楽しんでいただけた。						
3. お茶と季節感のある和菓子をいただきながら、和やかで穏やかな時間を過ごしていただく事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	先生のご指導のもとお手前をする		10月	先生のご指導のもとお手前をする		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロア：3F東						

書道クラブ活動報告						
活動回数	23回	参加延人数	302名	平均参加人数	13名	担当：清水
【活動報告】						
1. 第1・第3土曜日に活動						
2. 清書をした作品を参加者にみていただき、前回の清書した作品との講評を行いました。徐々に上達される喜びと、励ましの言葉を掛け合いながら交流を図ることが出来た。						
3. 施設と地域の文化祭に出品し外部の方に見ていただく事で、今後の喜びと励みになった。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	お手本をもとに練習・清書		10月	施設・地域の文化祭の作品練習・仕上げ		
5月	〃		11月	木をテーマにした漢字の練習		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	施設の文化祭に向けての練習		2月	木をテーマにした漢字の仕上げ		
9月	施設・地域の文化祭出展用作品の練習		3月	新しいお手本をもとに練習・清書		
職員担当フロア：2F東						

手芸クラブ活動報告						
活動回数	3回	参加延人数	61名	平均参加人数	20名	担当：井上
【活動報告】 1. 年3回の活動 2. 折り紙や粘土等を使用して置物や飾り物等、個性豊かな作品作りを楽しんでいただけた。 3. 参加者と交流を取りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	端午の節句の貼り絵		10月	写真フレーム（粘土使用）		
5月	活動なし		11月	活動なし		
6月	〃		12月	お正月用 貼り絵		
7月	〃		1月	活動なし		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロア：4階						

陶芸クラブ活動報告						
活動回数	9回	参加延人数	155名	平均参加人数	1名	担当：中嶋
【活動報告】 1・不定期 1回/月 2・粘土に触れ土の感触を感じながら、個性豊かな作品を作成することが出来た。 3・先生・参加者と交流を取りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	玉造りでの一輪差しの作成		10月	玉子型の湯飲みの作成		
5月	小さな花器と置き皿のセットの作成		11月	お正月に飾る鶏の置物の作成		
6月	葉っぱをモチーフにしたお皿の作成		12月	南天の葉の模様を付けたお皿の作成		
7月	葉っぱを押し当てて作るお皿の作成		1月	活動なし		
8月	ミニ植木鉢・お皿		2月	活動なし		
9月	一輪差しの作成		3月	活動なし		
職員担当フロア：4F						

音楽クラブ活動報告						
活動回数	17回	参加延人数	467名	平均参加人数	27名	担当：田村・井上
【活動報告】						
1. 日にち曜日不定期 1~2回/月						
2. 発声練習で、大きな声を出す事により、腹筋や口腔体操にもなり、自然に声を出すことが出来た。						
3. 馴染みの有る曲や、初めて唄う曲・懐かしい曲等、様々な思い出の有る歌を皆さんと楽しく歌う事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	発声練習・今までの課題曲の復習		10月	発声練習・今までの課題曲の復習		
5月	発声練習・今までの課題曲の復習		11月	発声練習・今までの課題曲の復習		
6月	今までの課題曲の復習・「銀婚式」		12月	発声練習・今までの課題曲の復習		
7月	今までの課題曲の復習・「櫻橋」		1月	今までの課題曲の復習・新曲もどりゃんせ		
8月	今までの課題曲の復習・「緑の地平線」		2月	今までの課題曲の復習・新曲「孫」		
9月	今までの課題曲の復習・「女のみち」		3月	発声練習・馴染の歌を唄い録音・聞く		
職員担当フロア：2F西						

童謡クラブ活動報告						
活動回数	20回	参加延人数	377名	平均参加人数	18名	担当：萩原
【活動報告】						
1. 第1・第3金曜日に活動						
2. ピアノ講師によるピアノ演奏で、童謡を中心とした歌を唄った。						
3. 良く歌った童謡や季節を感じていただく童謡等、ピアノの演奏で楽しい時間を過ごしていただけた。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	春の歌を取り入れた歌を唄う		10月	秋の歌を取り入れて歌を唄う		
5月	歌集をみながら楽しく唄う		11月	歌集をみながら楽しく唄う		
6月	ピアノの演奏に合わせて歌を唄う		12月	クリスマス・お正月を中心とした曲の歌		
7月	季節の曲を取り入れた歌を唄う		1月	活動なし		
8月	夏をテーマにした歌を含めた歌を唄う		2月	季節感を感じながら楽しく歌を唄う		
9月	秋の歌を中心に唄う		3月	ひな祭り・春を中心とした曲を唄う		
職員担当フロア：2F東						

フラサークル

・活動日は不定期で行った。自由参加で1回の活動で15名~20名程の参加でした。

上肢のリハビリを兼ねて、ハワイアン曲に合わせハンドモーションの意味を説明しながら楽しく踊り、参加者にはレイを掛けてハワイに居る雰囲気を感じていただいた。

セラピー犬とのふれあい

・不定期 各ユニットに連れていき、実際にセラピー犬に触れて癒しを感じていただけた。

会うのを楽しみにして下さっている方もおり、セラピー犬との触れ合いで自然な笑顔を見る事が出来た。

クラブ活動費実績：1,366,857円

10. 年間行事実施報告

第3サンシャインビル

平成28年度「年間行事計画実施表」

日時	曜日	行事名	内容
4月23日	土	観桜会	4階テラスにて太鼓、演奏、バルーンアート、カラオケを楽しむ。
5月19日	木	運動会	地域交流室にて利用者様対象でユニットごとにチームに分け競技を行う。
7月9日	土	納涼祭	地域交流室、屋外スペースにてフラダンス、よさこい盆踊りを楽しむ。
8月17日	水	夕涼み会	屋外スペースにて利用者、職員のふれいあいの場とし花火をして楽しむ。
9月17日	土	敬老会	地域交流室にて式典。大正琴演奏を楽しむ。各ユニットで祝膳。
10月1日	土	敬老会	日の出町の敬老会に参加。
10月29日	土	文化祭	クラブ作品展示、落語、大正琴、演奏、茶道を楽しむ。
11月12、13日	土	文化祭	日の出町の文化祭に参加。
12月		クリスマス会	各ユニットで計画しクリスマス会を行い楽しむ。
1月2日	月	元旦式典	地域交流室にて式典。各ユニットで祝膳。
1月1、2、3日		初詣	八幡神社、熊川神社に初詣に行く。
1月11日	水	餅つき	地域交流室にて餅つきを行い楽しむ。
2月3日	金	豆まき	各ユニットに鬼が周り豆まきを行い楽しむ。慰問の方と共に楽しく踊り楽しむ。各ユニットで祝膳。
3月2日	木	ひな祭り	各ユニットで祝膳。

行事費実績：1,042,748円

11. 事務費・固定資産物品報告

事務費報告

○事務消耗品費：4,210,154円
 ○通信運搬費：762,645円
 ○手数料：5,497,780円
 ○土地・建物賃借料：106,666円
 ○渉外費：242,402円

○印刷製本費：335,318円
 ○広報費：1,428,836円
 ○保険料：487,297円
 ○租税公課：213,753円
 ○諸会費：221,600円

○修繕費：534,964円
 ○業務委託費：7,477,976円
 ○賃借料：3,360,740円
 ○保守料：3,953,255円
 ○雑費：1,213,935円

12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告

自治体への事故報告

	転倒	転落	その他	計
4月	1	0	1	2
5月	0	0	0	0
6月	1	0	0	1
7月	1	0	0	1
8月	3	0	1	4
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	1	0	1	2
2月	0	0	0	0
3月	1	0	0	1
合計	8	0	3	11

アクシデント報告

	転倒・転落	誤飲・誤食	誤薬・未薬	その他	計
4月	5	0	1	1	7
5月	7	0	0	0	7
6月	8	0	0	0	8
7月	7	0	2	3	12
8月	3	0	1	1	5
9月	3	0	0	0	3
10月	7	0	2	1	9
11月	5	0	0	3	8
12月	2	0	0	0	2
1月	3	0	0	1	4
2月	2	0	0	0	2
3月	3	0	0	2	5
合計	55	0	6	12	

ヒヤリハット報告

4月	18
5月	17
6月	14
7月	14
8月	19
9月	17
10月	9
11月	10
12月	8
11月	15
2月	9
3月	22
合計	172

13. 職員研修報告

【外部研修】

研修日	研修内容	参加者
4/7・4/8	東京都認知症介護実践者研修	小篠俊明 栗野恵美
4月13日	福祉車両安全運転講習会	薩美昭夫
4月21日	東京都認知症介護基礎研修	湊理香
5月9日	食品衛生責任者養成講座	高崎理恵
5月10日	平成28年度第3回特定給食施設栄養管理講習会	南枝美希
5月18日	プラン作成に関連する生活リハビリについて学ぶ	小倉達也 佐野学
5月25日	よくする介護を実践するためのICFの理解	管野哲也 三好賢
6月5日	東京都認知症多職種協働研修	齋藤澄子
6月9日	動作介助(HNA)研修会	猪野香織
6月22日	認知症サポーター養成講座(公開講座)授業	高崎理恵 井上裕子 岩崎慎也 立石翔平 伊沢利恵 中村英之 篠崎哲一
6月29日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会研修	南枝美希 木村公紀
7月11日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会研修	木村公紀
7月11日	つながれ、ひろがれ、ちいきの輪 inTOKYO	篠崎哲一
7月13日	熊本地震から学ぶBCPセミナー	齋藤澄子
7/14・8/5	認知症介護実践者研修	小篠俊明
8月18日	秋川・青梅合同地域ブロック会(生活相談員研修会)	中嶋弘美 柴田則子
8月25日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会研修	木村公紀
9月23日	社会福祉施設災害防止講習会	高崎理恵
9月26日	結核講演会	高崎理恵
9月29日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会研修	木村公紀
10月2日	第4回 東京都栄養士大会	木村公紀
10月11日	東京都老人施設感染症指導者養成研修	竹田久美子
10月12日	第9回特定給食施設栄養管理講習会	木村公紀
10月12日	ケア×ホスピタリティー=サービスを超越する(秋川ブロック会)	中嶋弘美 柴田則子
10月13日	ショートステイ情報交換会	中嶋弘美
10月14日	「就業規則と労働時間」・「人材確保・定着のためのメンタルヘルス」	小澤俊太郎
10月24日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
10月26日	よくする介護を実践するためのICFの理解と活用	三好賢 管野哲也
11月18日	第34回みんなの栄養展	木村公紀
12月12日	公正採用選考人権啓発推進員研修会	齋藤澄子
7/20~12/21	介護支援専門員研修I(全10日)	柴田則子
7/13~12/28	介護支援専門員研修 更新研修(全7日)	管野哲也
1月12日	秋川地区特定給食研究会	木村公紀
2月6日	第10回特定給食施設栄養管理講習会	木村公紀
1/17~2/28	介護支援専門員 更新研修(全5日)	管野哲也
3月17日	生活相談員研修委員会(全体会)	中嶋弘美
	日の出町事業者連絡会(3ヶ月に1回)	齋藤澄子
	秋川ブロック会(3ヶ月に1回)	齋藤澄子
6/10~8/2	実務者研修教員講習会(全8回)	中嶋弘美 篠崎哲一
10/14~11/29	実務者研修教員講習会	齋藤澄子 吉澤克仁

【内部研修】

開催月	研修内容	講師
随時	新人職員研修	
4月	個人情報・プライバシー保護	田村副施設長
5月	ターミナルケア	齋藤施設長
6月	事故防止安全対策・緊急時の対応	池村（介護職員）
7月	感染症について	高崎（看護職員）
8月	ケアプラン・記録	中嶋（相談員）
9月	身体拘束・人権擁護	成田（介護職員）
10月	虐待防止	乙訓（介護職員）
11月	認知症理解	篠崎（介護職員）
12月	感染症について	佐野（介護職員）
1月	事故防止安全対策	乙訓（介護職員）
2月	褥瘡予防	小倉（機能訓練指導員）
3月	メンタルヘルス	高崎（看護職員）

※毎月 福陽会理念に対する研修を行う

開催月	ユニット単位対象 研修内容	担当者
5月	排泄介助	排泄委員会
7月	入浴介助	各ユニット
9月	食事介助	各ユニット
11月	口腔ケア	排泄委員
1月	体位交換・トランスファー	小倉（機能訓練指導員）
3月	接遇マナー	篠崎（介護職員）

旅費・研修費実績：271,636円

14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告

平成28年度もボランティアや慰問の方々を地域資源として積極的に受け入れを行い、新たな方や、定期的に来て下さる方等活動者も増えてきている。今年度より、将棋ボランティアや絵画ボランティアの方も登録され、利用者様に楽しんで頂ける機会が多くなった。今年度は、地域ボランティア交流会と題し、ボランティアの方々同士、ボランティアと職員との交流を図った。交流会を行う事で、施設でどのような活動が行われているのかを知り、ボランティアの方々の声を直接聞く事ができ、とても良い会となった。来年度も地域ボランティア交流会を行い、ボランティアにとっても、施設にとってもより良い関係を築いていけるようボランティアの受け入れ、連絡調整を行っていく。

地域交流室の開放についても、昨年同様、数グループから問い合わせがあり、使用している。日の出町ニュースの会や、チャイルドサークル、卓球連盟、インディアカなどのサークル活動の方達の交流の場として提供した。

●新規のボランティア活動登録者

町田富三様（将棋・囲碁）	正根寺和子様（歌の付き添い）
古川 進様（傾聴）	片小田由美様（傾聴）
鈴木 宏様（外出ボランティア）	根岸初江様（絵画）
長田信子様（レクリエーション補助）	

15. 消防訓練実施結果

平成28年度は、震災への対応も含めた避難訓練に重点をおく訓練を行った。また寝たきりの利用者についても積極的に取り組む意識が出てきている。職員全体に意識付けが出来た。また、消防訓練参加者チェック表を作成し、一人でも多く参加してもらうようにした。

【28年度訓練内容】

実施日	訓練種別	内容
4月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119番通報要領訓練 参加者全員で消火器を使用した訓練を行った
5月	自衛消防訓練	秋川消防署主催の自衛消防審査会に参加するための訓練 非常に熱心に訓練に取り組んだ
6月	自衛消防訓練	同上 消防審査会にて優勝をとる事が出来た
7月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119番通報要領訓練 参加者全員で消火器を使用した訓練を行った
8月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った
9月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 日勤帯の訓練、指導を行った
10月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119番通報要領訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
11月	避難訓練 (日勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 多くの職員が参加し、訓練に取り組んだ
12月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 総合訓練を重ね、実践に備えた
1月	避難訓練 (夜勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
2月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
3月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った

16. ショートステイ事業報告

★ショートステイ事業報告

ショートステイの受け入れに関して、今年度も前年度同様、土日・祝日問わずに受け入れ態勢を整え、夕食後の送迎、事前にご自宅へ訪問して面接・契約などを行いご家族様の負担軽減を図る等の対応を行い、ご利用者様・ご家族様・担当ケアマネジャーより利用しやすいなどの声を多くいただいているが、稼働が中々伸びていないのが現状である。繰り返し利用して下さる利用者様の獲得は出来ているが、近隣の特養や老健等多くあるため、ショートステイ専門10床を埋めていく事は難しい状況である。そのため今後も施設の『使いやすさ＝売り』をアピールできるよう居宅介護支援事業所等への営業活動を増やし、ケアマネジャーとのつながり・連携を強めていきたい。ショートステイ利用後、ご利用者様やそのご家族様が施設内の生活を気に入られ、特養入所枠へ申し込みをされ、数日単位より週単位で利用される方も多くいるため、特養入所を見据えたご利用者様のショートステイの受け入れも推進していき、稼働率のアップを図っていきたい。

平成28年度稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月
76%	63.2%	64%	67%	62.9%	60%

10月	11月	12月	1月	2月	3月
56.5%	55%	52.6%	68.7%	82.1%	61.9%

介護報酬収入等年間実績 31,409,686円